

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会
北海道障がい者就労支援センター

就 労 支 援 業 務 事 業 評 価 書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成29年 7月

指定法人事業評価委員会

■評価の基本的な考え方

指定法人事業評価委員会は、北海道障がい者及び障がい児の権利擁護並びに障がい者及び障がい児が暮らしやすい地域づくりの推進に関する条例(平成21年北海道条例第50号)第31条第8項の規定に基づき、社会福祉法人 北海道社会福祉協議会(北海道障がい者就労支援センター)の平成28年度における障がい者就労支援業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、北海道が示した、指定法人要求水準書に定めた事業ごとに、その実績を記載した就労支援業務事業報告書及び法人からの聴取を基に評価委員の全体協議により「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

1 項目別評価

指定法人要求水準書に掲げる事業ごとに、平成28年度の事業計画の達成状況について、4段階により評価する。

A: 計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。

B: 計画に基づき適正に実施されている。

C: 計画に対し、やや不十分な内容である。

D: 計画に基づき実施されておらず、重大な改善事項がある。

※C及びD評価の場合は、指摘及び改善事項等について、意見を付すものとする。

2 全体評価

■指定法人事業評価委員会委員

分野	所属・役職	氏名	備考
学識者	北翔大学生涯スポーツ学部 教授	梶 晴 美	委員長
保健福祉関係者	くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援 センター ぷれん センター長	高 谷 さふみ	委員
企業関係者	株式会社ほくでんアソシエ 代表取締役社長	大 前 雅 嗣	委員

■指定法人事業評価委員会開催

開催日時 平成29年6月12日(月)14:30~17:00

開催場所 道庁別館西棟4階 経済部会議室

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
全体評価			
<p>授産事業所における収益力の向上等を図るため、第3期障がい者就労支援推進計画に基づき、授産事業の経営力向上や受注拡大等に向けた支援の取組を行う。</p>	<p>関係機関との連携を図りながら、授産事業所のニーズに応えた指導、助言及び研修を実施し、事業所の経営改善や販路拡大に向けた取組を実施した。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>事業所のニーズに合わせた新たな取組が行われており、特に不十分な点は見受けられない。 今後も、経営改善や販路拡大に向けた取組の促進を期待する。</p>
I 工賃向上計画の策定・推進事業			
<p>「工賃向上計画」策定事業所等に対し、専門家等を派遣するなどし、経営相談・技術指導等を実施。</p> <p>■ 個別経営相談 経営の専門家である中小企業診断士により、各事業所が作成している「工賃向上計画」に基づいた個別経営相談を実施することにより、授産事業所における計画の適切な推進とそれによる工賃の向上を図る。</p> <p>【要求水準】</p> <p>★ 授産事業所のニーズに対応した方法(実施地域・時期等)で実施されること</p> <p>★ 経営等に関し十分な知識を有するコンサルタントが選任されること</p> <p>★ 相談内容や相談による効果等を公表し、他事業所の相談依頼に結びつけること</p>	<p>■ 個別経営相談</p> <p>1 経営コンサルタントによる経営相談の実施 <個別経営相談(集合)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施 平成29年2月23日(木)、3月10日(金) ・ 内容 中小企業診断士による「工賃向上計画」策定の推進、計画達成のための経営改善等の指導 ・ 相談件数 7施設7件(2/23 2件 3/10 5件) ・ 平成27年度より相談料無料。 ・ 担当中小企業診断士:3名(野崎晴行、小松康晴、佐々木恵一) ※相談概要をHPIに掲載した。 H27と比べ相談回数を増やし2回としたが件数増には至らず。 H29は研修資料等に相談会PRを織り込んだ広報を展開予定。 <p><個別経営相談(派遣)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施 ※日々の相談から必要に応じ専門コーディネータが対応 ・ 対応者:大泉浩一中小企業診断士(専門コーディネータ) ・ 内容 「事業所の経営を改革したい」 「地元特産品を用いた商品を開発したい」 「新規事業所の立ち上げについてアドバイスがほしい」 との相談に対して、都度アドバイスを行った。 <p>2 経営コンサルタントの確保と活用</p> <p>① 工賃倍増集中対策事業で活動実績のある中小企業診断士を選定し、個別経営相談を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業診断士 野崎 晴行 氏 ・ 中小企業診断士 小松 康晴 氏 ・ 中小企業診断士 佐々木 恵一氏 <p>② 中小企業診断士執筆の工賃向上に関するメールマガジン「工賃向上ワンポイント」の配信を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 執筆者 中小企業診断士 小松 康晴 氏 ・ 平成28年度⑦～⑩号を配信。(平成27年度より通算) 	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>昨年度と比べ相談件数が減少しているが、概ね維持できている。 相談やアドバイスの内容を次年度の事業計画に反映させるため、実施時期を早めるなどの工夫を望む。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
<p>■ 経営・技術指導 企業経営に関する基礎知識や製造技術等の専門技術等に関する講習等の実施により、授産事業所における企業経営的ノウハウの導入及び職員の資質の向上を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所のニーズを踏まえた内容設定がなされること ★ 企業経営的ノウハウの導入、職員の資質向上(営業力向上等)に向けた効果的な取組であること</p>	<p>■ 経営・技術指導</p> <p>1 授産施設・事業所経営セミナーの実施</p> <p>● 社会就労センター施設長・職員研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき 平成28年6月30日(木)～7月1日(金) ・ ところ 札幌市／北海道第2水産ビル ・ 参加者 97名 ・ 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 中央情勢報告 全国社会就労センター協議会 副会長 高江 智和理 氏 2) 講義1「福祉人材確保の戦略と社会福祉施設・事業所に求められる取り組みについて」 らしさ研究所 代表 門野 友彦 氏 3) 講義2「女性の活躍と人材定着について」 株式会社 ママココ 代表 中島 三栄子 氏 4) 講義3「ずっとここで働きたいといわれる会社を目指して」 株式会社アップルファーム 代表 渡部 哲也 氏 <p>● 事業所経営セミナーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき 平成29年3月9日(木)～10日(金) ・ ところ 札幌市／北農健保会館 ・ 参加者 101名 ・ 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 中央情勢報告 全国社会就労センター協議会 会長 阿由葉 寛 氏 2) 講義1「工賃向上の取り組みについて」 日本財団ソーシャルイノベーション本部 竹村 利通 氏 3) 講義2「怒りのコントロール法」 コミュニケーションデザイン結 代表 桜井 妙 氏 <p>2 製品製作技術研修会の開催</p> <p>● 利用者の工賃向上と就労支援を考える研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき 平成28年9月28日(水)～29日(木) ・ ところ 岩見沢市／ホテルサンプラザ ・ 参加者 94名 ・ 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義1「工賃アップ・就労支援の秘訣～小さな町で働く・くらすを支える～」 障がい者支援施設 邑智園 施設長 寺本 賢司 氏 2) 先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> ・ とわくベーカリー(就労継続支援B型。パン製造販売) ・ きっちんどう、たのしいどう(就労継続支援B型。おにぎり等製造販売) ・ ワークつかさ(就労継続支援B型。雉の育成、加工) ・ 日本理科学工業(障がい者雇用企業。チョコレート製造) ・ 南美唄福祉工場(福祉工場。マットレス等の製造) 3) シンポジウム「事業所の実践を通して工賃向上を考える」 司 会 北海道セルフ協調査研究研修委員長 田中秀典氏 助 言 障がい者支援施設 邑智園 施設長 寺本賢司 氏 	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>昨年度の評価結果(視察先の偏り)に基づき、内容が改善されており、その効果(参加者増)も見られた。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
<p>■ 授産事業所に関するアイデア募集 授産事業所職員や一般道民などから、授産事業に関するアイデアを募集し、その内容について実現の可能性等を検討するなどして、事業の改善や新たな取り組みにつなげる。</p> <p>【要求水準】 ★ 寄せられたアイデアは、客観的に分析・検討を行い、実現性のある取組については、有効かつ効果的に活用される内容であること。</p>	<p>シンポジスト(事例発表者) ・と・わーくペーかりー 池添幸子 氏 ・ワークつかさ 玉置広範 氏 ・地域支援センターライフネットゆうばり 中川 博之 氏</p> <p>2 「工賃向上計画」策定・実現ノウハウ集をホームページで公開。</p> <p>■ 授産事業所に関するアイデア募集</p> <p>1 実施結果 ・ H27に事業所のグループ及び運営委員会が出た意見をもとに中元(13セット)、歳暮(8セット)、クリスマス(4セット)のギフトセットページHPを作成。道庁ブログ「超旬ほっかいどう」「札幌商工会議所メールマガジン」にも掲載した。 ・ 各種販売会にてアンケート用紙を配布した。 ・ マッチング業務の中から随時アイデアの聞き取りを行った。 ・ 道セルプ協各種研修にてアイデアのアンケートを実施した。</p> <p>2 アンケート結果 ・ 畜産をしている事業所は飼料を作っても面白い。 ・ シイタケ栽培事業所が多い。シイタケを使った菓子やパンを。 ・ 北海道の食材を使ったせつかくの製品を、全国に発信したい。 ・ 道外特産品を導入し「作物を加工して」収益性を持たせたい。 ・ まず、事業所同士で消費しあう、内需拡大だと思う。 上記のアンケート結果から、平成29年度は内需拡大及び作物を加工して付加価値を創造するような商品開発事業を実施</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>授産製品を組み合わせたギフトセットの展開など、継続的な取組内容は評価できる。 アンケート結果を経営相談や技術指導に繋げるなど、一貫した取組を期待する。</p>
II 授産事業所間の連携・共同化			
<p>授産事業所の販路の確保・拡大や新規事業の検討、事業改善を図るため複数の授産事業所間による連携・共同化に向けた授産事業所へのアドバイスや業務の調整等を実施。</p> <p>■ 授産事業所間連携・共同化の促進 授産事業所間による事業の連携・共同化の促進を図るため、モデル事例の周知を図るとともに、連携・共同化に向けたアドバイス等を行う。</p> <p>【要求水準】 ★ 十分な知識を有するアドバイザーが選任されること ★ 連携・共同化に向けた効果的な実施内容であること ★ 取組内容、成功事例は積極的に公開・周知すること</p>	<p>■ 授産事業所間連携・共同化の促進</p> <p>① 共同受注システム(ナイスハートネット北海道)の啓発 ナイスハートネット北海道の全国ネット化(日本セルプセンターと連携)を促進し、H28年度新たに茨城県が加入。 道内全未登録事業所に対し郵送で登録の依頼。全登録事業所に郵送でid.passを再通知し、更新、商品登録を依頼した。</p> <p>② アドバイザー、専門家の活用 マッチング事業で実績のあるコーディネーター(中小企業診断士:大泉浩一氏)及び地域スタッフによるコーディネートを行った。</p> <p>③ 各種イベントへの出展調整 「北のめぐみ愛食フェア」(4事業所)、及び道庁赤れんがカフェ(臨時店舗。2事業所)、アピリンピック北海道(6事業所)への出展について、道内各事業所への通知又は出展希望の取りまとめ、調整等を行った。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>年度内に交渉成果が見られなかったものの、大規模施設での福祉製品販売企画を提案するなど、新たな工夫が見られている。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
	④ 大規模施設において福祉製品販売企画(授産製品のみを扱うの出店)を提案し交渉中(27施設114品目を提案) ⑤ その他の授産事業所連携調整 ・「道民笑いの日」記念事業のノベルティーについて、3事業所が連携しセットを作成し提供した。 ・各種イベント(正月、クリスマス、歳暮)ごとに、複数事業所のギフト商品をまとめた「ギフトページ」をナイスハートネットに作成し宣伝した。 ・全国展開のサ高住における個人洗濯物サービスの下請け業務について、旭川と札幌の施設に受注を調整し契約に至った。		
Ⅲ 市場調査・商品開発事業			
<p>魅力ある製品づくりと質の高いサービスの提供を行うため、市場調査及び商品開発に関する取組を実施。</p> <p>■ ニーズ調査及び商品評価 企業等のニーズ把握と商品評価により、授産事業所の商品力の向上を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所の意向等を踏まえた効率的かつ効果的な取組であり、成果品の有効活用が図られるものであること。 ★ 商品評価の取組内容(成功事例)を公表・周知すること。</p>	<p>■ ニーズ調査及び商品評価</p> <p>● ニーズ調査・商品開発</p> <p>1 専門家の派遣(1施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣専門家 引地 学 氏(フードコーディネーター) ・ 派遣先 稚内第一木馬館 手作り工房どーナつ ・ 商 品 おーなつ、棒なつ(ドーナツ)等 <p><相談内容> H28は従来の商品開発のみにとどまらず、収益構造の再検証、商圈調査、店舗レイアウト、地元農産品の活用を含めた店舗活性化などにまで踏み込んで指導。成果として特に、商圈調査に基づき販路開拓のアドバイスをした結果、幼稚園へ600個の大口注文があげられる。さらに、優先調達・広報の観点から、振興局と連携し指導に立ち会っていただいた。</p> <p>● 商品評価</p> <p>2 授産施設・事業所向け商品評価・商談会の実施 と き 平成28年7月22日(金) と ころ 札幌市／かでの2. 7 参加者 6事業所</p> <p>内 容 説明 「商品流通方法について」 商談 「商品プレゼンテーション」 商品評価と改善提案 講師：株式会社感動いちば 窪田誓司氏(フードコーディネータ) 評価対象製品 ・ごぼう茶 ・十勝産生豆 ・十勝産粒あんこしあん ・コーヒー ・チーズケーキ ・カタラーナ ・ドーナツ ・ぎょうざ ・クッキー ・紅海の塩 ・スティックブラン ※採用 ・ごぼう茶・十勝産小豆・餡子(H29秋商品として) ※商品開発・評価について、参加事業所を増やすために、紙媒体による周知を実施した。商品評価の面で平成27年度はドック(コープ)掲載を目指し厳しい基準で実施していたものを改めアドバイスに重点を置く旨周知して実施したが件数は伸びず。平成29年度は、原材料と加工双方を事業所が連携して担う商品評価開発事業を展開し、参加しやすい環境を整える。</p>	A	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>従来の商品開発のみに留まらず、収益性、レイアウト、パッケージ等まで踏み込んだ指導を実施した結果、大口注文に繋がったことは評価できる。 今後は、注文数を確認するなど、事業効果を把握することが望ましい。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
<p>■ 商品開発に関する研修 企業担当者等による商品開発等に関する実践的アドバイスにより、授産事業所の商品・サービスの向上を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所や市場ニーズを踏まえたテーマ等が設定されること ★ 十分な知識を有する者を講師が選任されること</p>	<p>■ 商品開発に関する研修</p> <p>1 実施結果</p> <p>● 看板商品・人気商品を作り出す研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とき 平成28年10月4日(火) ・ ところ 札幌市／かでの2.7 ・ 参加者 59名 ・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> 講義1「徳島県における共同受注窓口の活動と取組」 講義2「各事業所における個別的取組事例の紹介」 <p>とくしま障がい者授産支援機構 副理事長 三橋一巳 氏</p> <p>同支援機構では、県内施設の若手職員からなる「ブランド研究会」を設置し、専門家の指導と協力を仰ぎながら、ブランド価値の規定、方針・計画・戦略等を調査・研究し、統一したブランド戦略を策定し「awanowaブランド」として展開している。</p> <p>林業関係者との連携による割り箸製造販売、徳島名産の藍を活かした藍染製品等々を展開している。</p> <p>● 企業と障がい者事業所の共同開発商品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チョコッとば(事業所は加工(チョコレートコーティング) 企業は空港で販売) ・ 蝦夷山わさびしょうゆ漬(事業所は、加工(わさびすりおろし) 企業は道産品として販売。TVにも取り上げられた) ・ 黒豆茶(事業所は加工(焙煎、ミルでの粉碎)、 企業は道産品として販売) <p>※大泉コーディネータの助言と仕掛けによって実現した。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>昨年度のアンケート結果に基づく研修テーマ(ブランドづくり)であるが、事業所単独での出品・開発は、やや難しい面が見られた。</p>
IV マッチングサポート事業			
<p>授産事業所の製品・サービスの受注拡大を図るため、授産事業所と企業等とのビジネスマッチングに関するサポートを行う。</p> <p>■ マッチング事業〔共同受注システム〕 授産事業所の製品やサービスの販路の確保・拡大を図るため、インターネット上で企業等が発注する仕事と授産事業所のマッチングの場を設けるとともに、専門コーディネーターによる受発注のコーディネートを行う。</p> <p>また、地域での複数事業所による原材料の共同仕入れや企業の発注ニーズに対する作業量及び作業工程の分担受注等の調整を行うほか、道の各部局等における授産事業所等からの優先調達の相談窓口として、適正な情報提供や助言を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共同受注システムの運営 ・ 専門コーディネーター及び地域スタッフの配置 ・ 優先調達の推進 ・ 授産製品、サービスのPR ・ 事業の周知活動 	<p>■ マッチング事業〔共同受注システム〕</p> <p>1 共同受注システム(ナイスハートネット北海道)の運営</p> <p>● 登録状況(H29.3月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報登録:854施設(前年度比46件増) (登録対象事業所数:973件登録率87.8%) 商品登録施設数:447施設(前年度比55件増) <p>● 登録・更新の呼びかけ(H28より全事業所に郵送にて依頼)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道内全未登録事業所に対し郵送で登録の依頼。 ・ 全登録事業所にid,passを再通知し、更新、商品登録依頼。 <p>● ホームページの更新・事例紹介・ページの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おすすめ製品を紹介するコーナーを作成・更新を行った。 <p>● ナイスハートネット全国版及び都府県版の拡充・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年3月に全国版ポータルサイトの更新を実施。 平成28年度から茨城県が加入し、他県との連携が拡大した。 	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>共同受注システムの積極的な周知・運営により、マッチング件数は高く推移している。</p> <p>商品数を増加させる工夫も見られ、効果的な販売支援が行われていることは、高く評価できる。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
<p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 経営、マーケティング等に関し、十分な知識等を有するコーディネーターが配置されること ★ コーディネーター等による積極的に新規企業の開拓が図られるものであること ★ 利用者の利便性を考慮するとともに、アクセス数増が期待できる魅力ある専用ホームページ(共同受注システム)の構築・運営がなされること ★ 授産事業所の連携・共同化に向けた実現性のある取組であること ★ 道の各部局等への情報提供は、定期的かつ活用されやすいものであること ★ マッチング事業及び授産事業所の製品・サービスの認知度向上が期待できる効果的かつ効率的な事業のPR方法であること 	<p>2 専門コーディネーター・地域スタッフの配置及び活動内容</p> <p>① マッチング事業(H20.10～現在)コーディネーターで実績のある中小企業診断士(大泉浩一 氏)を委嘱。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌に地域スタッフを配置。 <p>② 活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授産事業所と企業とのマッチングコーディネート ・ マッチングシステムの紹介(企業へ) ・ 受注に当たっての、授産事業所へのアドバイス ・ 製品開発・改良へのアドバイス、専門家の紹介 ・ マッチング実績 <p>平成28年度 商談成立124件(平成27年度と同数)</p> <p>3 授産製品・サービスのPR</p> <p>① 「ナイスハートネット北海道」による紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品登録施設事業所数:447施設 <p>② 北海道社会福祉協議会広報誌「明るい社会」への掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季刊(年4回)。コーナー「きらきらマルシェ」を設け各号3事業所の製品を紹介。毎号1製品を読者プレゼントとした。 <p>③ 授産製品販売会等への出店・販売等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出展販売:催事11回、売上(3,107千円) ● 出店調整:イトーヨーカ堂アリオ札幌店の授産製品販売会「ナイスハートフェアinアリオ札幌」への出店者調整を行った。 ● 委託販売:催事7回(社協夏祭り等)、売上(253千円) ● 受注販売:6回(道社協内販売、広報誌プレゼント)、売上(13千円) ● 常設販売:納品調整・売上額の送金事務 ・ 赤れんが売店(株小六)H22年6月～ H28年売上320千円) <p>④ パネル展など催事開催への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者授産施設・共同作業所パネル展示会(H28.8.29～31) ・ いきいき健康・福祉フェア(H28.10.14～16) <p>⑤ 授産製品のチラシ、パンフレットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種研修会・イベントでチラシパンフレットを配布した <p>⑥ 授産製品販売支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● セイコーマートポイントカード交換用景品への推薦 ・ 新商品提案: 6事業所 21品 採用:0品目 ※カタログ見直しにより新規採用凍結のため新規採用ゼロ ● 赤れんが売店(株小六)への商品提案 ・ 提案:3事業所 15商品 採用:1品目 ● JAIFA(生命保険ファイナンシャルプランナー協会)研修会における授産製品販売会の出展調整 ・ 合計4回。延べ8事業所出展。年度売上高327千円 ● 道庁庁舎内授産弁当販売事業所の調整 ・ 5事業所により販売実施 <p>4 事業の周知活動</p> <p>① ホームページによる事業紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センターホームページの運営・更新を行った。 更新回数22回(イベント周知、販路拡大に係るお知らせなど) 		

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
<p>■ 多様な販路の確保 授産事業所の製品やサービスの新たな販路の開拓等を図るため、経済団体や企業等が主催する商談会やイベント販売等へ参加し、商談会における商品提案力等の向上を図るための研修会等を実施する。</p> <p>【要求水準】 ★ 出店事業所・商品の選定方法は合理的な方法であること ★ 研修は事業所の現状及びニーズを踏まえたものであること</p>	<p>② 必要に応じたマスコミ等への情報提供 ・ いきいき健康・福祉フェア取材(ケーブルテレビ) ③ 必要に応じた社会福祉関係会議における周知依頼 ・ ナイスハートネット北海道パンフレットを配布した。 配布先:研修会での配布、各事業所、関係団体、マッチング商談企業等へ配布 ・ 北海道社協広報誌「明るい社会」(季刊 年4回)に毎号ナイスハートネットの紹介を掲載、各種会議で配付 ④ 市町村向けメールマガジンの発行 ナイスハートネットの周知 ※道障がい者保健福祉課の協力を得て実施。</p> <p>■ 多様な販路の確保 1 授産施設・事業所向け商談会の実施(再掲) ・ と き 平成28年7月22日(金) ・ ところ 札幌市/かでの2.7 ・ 参加者 6事業所 ・ 内 容 説明「商品流通方法について」 商談「商品プレゼンテーション」 商品評価と改善提案 ・ 講師:株式会社感動いちば 窪田誓司 氏(フードコーディネーター) 評価対象製品 ・ ごぼう茶 ・ 十勝産生豆 ・ チーズケーキ ・ ドーナツ ・ カタラーナ ・ ぎょうざ ・ クッキー ・ 紅海の塩 ・ コーヒー豆 ・ スティックブラン ・ 道産小麦の焼き菓子 フロランタン ※採用 ・ ごぼう茶・十勝産小豆・餡子(H29秋商品として)</p> <p>2 授産製品の販売機会への出展・出展調整 事業計画のとおり実施(再掲)</p> <p>3 授産製品販売網の確保・開拓 ① 事業計画のとおり実施(再掲) ② 優先調達推進法に基づく方針未策定自治体へ直接訪問・営業道内49市町村を事業所職員が直接訪問し、ナイスハートネット北海道を紹介。また、当センターで作成した各市町村近郊の事業所リストと商品リストを手渡し営業活動を行った。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>優先調達推進法に基づく方針未策定の自治体への訪問については、新たな取組として評価できる。 また、商談会により商品が採用されたことは、大きな成果といえるが、参加事業所数が少ないので、積極的な周知を望む。</p>
V アクション及び企業認証制度の普及・啓発事業			
<p>企業等による障がい者就労支援に対する理解と取組を促進するため、「障がい者就労支援の輪を広げる取組～一人1アクション及び障がい者就労支援企業認証制度(以下、「企業認証制度」という)の普及・啓発を行う。</p> <p>■ アクション及び企業認証制度 アクション及び企業認証制度による登録件数拡大に向け、登録申請受付及び普及・啓発活動を行う。</p>	<p>■ アクション及び企業認証制度 1 申請受付件数 [アクション]</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>指定法人として要求されている業務を適正に実施している。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成28年4月～平成29年3月)	評価	意見等
<p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 申請受付の適切・迅速な処理がなされる体制であること ★ 登録・認証企業の公表内容・手段等が効果的であること ★ 平成29年度末までに認証企業数200件の目標達成に向けた、効果的な制度のPR方法であること 	<ol style="list-style-type: none"> 1 申請受付件数 [アクション] ・ 企業サポーター 1件(24年度)、4件(25年度)、1件(26年度) 1件(27年度) 個人サポーター1件(28年度) 2 普及・啓発活動 ・ 道民1人1アクションの紹介をホームページに掲載した。 		
VI その他本事業の目的のために必要と思われる取り組み			
	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種委員会への参画 ・ センター長が「北海道障がい者就労支援推進委員会」の委員として参画 2 関係団体との連携・協力 <ol style="list-style-type: none"> ① ツルハドラッグとの連携モデル事業 ・ ツルハ店頭(旭川)にて授産製品の販売 ② 日本セルフセンターとの連携 ・ ナイスハートネット全国版(ポータルサイト)運用と他県加入促進 ③ 北海道社会就労センター協議会との連携 ・ 各種研修事業等での連携 3 各種助成事業との連携 <ol style="list-style-type: none"> ① 北海道新聞社会福祉振興基金との連携 ・ 小規模通所就労支援事業所器具備品整備等助成事業の周知、取りまとめ、その他事務作業を行った。 ② 生命保険協会札幌協会・苫小牧協会との連携 ・ 福祉関連物品(障がい者支援)助成の申請書類取りまとめ事務作業を行った。 4 市町村向けメールマガジンの発行(再掲) ・ ナイスハートネット北海道の紹介 		